

事業の背景・目的

クワガタムシ科の一群であるマルバネクワガタ類は、日本では琉球列島に分布する。原生的な森林に生息する大型種は3種2亜種計5タクサであるが、そのうち1種2亜種（計3タクサ）は国内希少野生動植物種に指定されている。これは、過去における森林伐採や過剰な採集圧により、絶滅の危機に瀕していることが明らかとなったためである。

このため、国内希少野生動植物種指定の3タクサを生息域外保全の目的で、またその比較のため残りの2タクサ、計5タクサについて、伊丹市昆虫館において飼育下繁殖技術の確立を試みるとともに科学的知見の集積を行った。



事業の概要

・生息域外保全事業

目的：国産マルバネクワガタ大型種5タクサのについて、飼育（生息域外保全）個体群を維持することにより種（系統）の保存を行った



成果

順調に累代飼育継続中、種の保存に貢献

採卵に用いるための褐色腐朽材の、人工的な作製を試行中

マルバネクワガタ類の性フェロモンの候補物質を発見

アマミマルバネクワガタ、オキナワマルバネクワガタの2齢幼虫時、ヤエヤママルバネクワガタの1齢および2齢幼虫時の、異なる温度区における発育日数および発育零点を算出

・ファウンダー確保事業

目的：生息地における生息状況調査
飼育下繁殖を行うためのファウンダーの確保



成果

奄美群島、沖縄諸島、八重山諸島の国産マルバネクワガタ大型種が分布する、計9島にて生息状況調査を行った

ウケジママルバネクワガタのメスを野外にて1個体採取することができ、そのファウンダーから81卵が得られた

与那国島では発生木が僅少であることを確認

久米島では個体はおろか生息を示す痕跡も見つからなかった